



それぞれの未来を考える

島根県出雲市立浜山中学校

担当教科：英語

吉田 奈穂子

◆実践教科：総合学習、学級活動 ◆時間数：4時間 ◆対象学年：学年：全学年、中学3年生
◆対象人数：全学年382人、3年37人

カリキュラム

◆実践の目的

- マラウイ、マラウイの文化、マラウイの子どもたちのことを知る
- マラウイの子どもたちの生き方を知り、これまでの自分を改めて振り返り、これからの自分の進路について考える

ココがすばらしい!

中学3年生を対象に、卒業後の進路だけでなく、大きな枠組みで「どんな人生を歩みたいか」を考えさせ、それを仲間と共有する事で「一人として同じ人間はいない」、「違って当たり前、違うから面白い」ということを伝える授業を実践。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	マラウイを知る マラウイの生活、文化、子どもたちについて知る	(1) 世界地図を見てマラウイの位置を確認する (2) マラウイについてのDVDを解説を聞きながら見る (3) 質問をする	・世界地図のデータ ・マラウイで撮影した映像
2	これまでの私 15年間の自分の人生を振り返りそれぞれの人生があることを知る	(1) 教師の「人生グラフ」の説明を聞く (2) それぞれの「人生グラフ」を記入する (3) マラウイの教科書にある少女の「人生グラフ」を見て、教師の説明を聞く	・ワークシート「今までの私」 ・マラウイの教科書
3	今の私 それぞれの育ってきた環境で今の私があることを知る	(1) 教師の「今の私」の説明を聞く (2) 今の私に影響した「物」「人」「出来事」を記入する (3) マラウイの子供たちのアンケート結果を見て、教師の説明を聞き、共通点を考える	・ワークシート「15歳の私」 ・アンケート結果
4	これからの私 生き方は1つではないこと、生き方はそれぞれ異なっているがみな同じ「死」に向かっていることを知る	(1) 「これからの私」を記入させる (2) マラウイと日本の平均寿命の違いを知る (3) マラウイのHIV/AIDS問題、学校の問題点の説明を聞く	・ワークシート「これからの私」

1 時限目

マラウイを知る

- ・ パワーポイントで世界地図を出し、マラウイの場所を確認し、教師が高根県からマラウイまでたどった道のりと所要時間の説明を聞く。
高根→大阪(約2時間)→香港(約4時間)→南アフリカ共和国(約13時間)→マラウイ(約2時間30分)
- ・ DVD「生活」編と「学校」編を中心に見せながら、マラウイの文化、子どもたち、学校について説明の説明を聞く。映像の途中で教師から投げかけられる質問を考えて答える。



生徒の感想

- ・ 「マラウイ」の場所を知っている生徒がおらず、とても遠い場所にあることにびっくりしていた。
- ・ マラウイの子どもたちのおかれた現状（学校の設備の悪さ、HIV/AIDSの問題など）を真剣に見て理解しようとしていた。

〈所感〉

先生方の所感または反省及び改善策等

全校集会で生徒382人、教職員40名、保護者約10名を対象に行った。

対象人数が多かったのでDVD使用した。音や人の動きを通して、それぞれがマラウイに滞在しているような疑似体験ができたのではないかなと思う。言葉や写真だけの説明ではすべてを理解することは難しいが、映像は現状を素早く理解するのに大変効果的だった。

2 時限目

これまでの私

(1) 教師の「人生グラフ」の説明を聞く

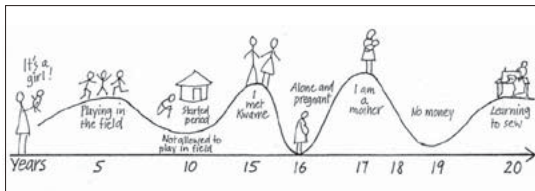
まず、黒板にグラフだけ提示し、生徒に幸せ度下がっている箇所、上がっている箇所であったか考える。考えを述べつつ、教師の説明を聞く。併せて、グラフの描き方の説明も受ける。

(2) それぞれの「人生グラフ」《ワークシート①》を記入する

記入後に周りの生徒と小グループで自分の人生グラフを説明し合う。何名かの生徒は自分の「人生グラフ」を黒板に記入する。

(3) マラウイの教科書にある少女の「人生グラフ」を見て、教師の説明を聞く

マラウイの教科書にある少女のグラフを見る。「10歳で生理になり外で遊ぶなくなる」、「16歳で妊娠」、「17歳でシングルマザー」、「19歳で経済的に困難な状況になる」、「20歳で裁縫を習い始める」などの項目を読みながら、日本人である自分たちの項目と比べる。



生徒の感想

- ・ 始めは自分の幸せを数値化することに戸惑っていたが、ゆっくり振り返り、自分なりの幸せの基準を考えていた。生まれてきたことに対してマイナスの数値をつけている生徒はおらず、ほとんどの生徒が80以上をつけていた。
- ・ マラウイの女の子と自分たちとは違うグラフになるだろうと予想している生徒が多かった。

〈所感〉

人それぞれ、どこの国で生まれ育とうが、まったく同じ人間はいないということ、同じ日本人でもまったく同じグラフの人はいないということ、ある人が幸せに感じる事が、必ずしも別の人にとってはそのように感じることはないということも知ってほしかった。生徒は、人と同じでなくてもいいということを理解し、自分が生まれてきたことを肯定的にとらえることができていた。

3時限目

15歳の私

- (1) 教師に影響を与えた「物」、「人」、「出来事」についての話を、エピソードを交えながら聞く。
- (2) 今の私に影響した「物」、「人」、「出来事」を「15歳の私」《ワークシート②》に記入する
記入後に周りの生徒と小グループで、自分に影響を与えた「物」、「人」、「出来事」を伝え合う。のちに、発表できる生徒はエピソードを交え、みんなの前で自分に影響を与えた「物」、「人」、「出来事」を発表する。
- (3) マラウイの子供たちのアンケート結果を見て、教師の説明を聞き、共通点を考える。

生徒の感想

- ・ 影響を与えた「物」はたくさん出てくるが、「人」や「出来事」はなかなか出てこない生徒が多かった。
- ・ 生徒が揚げた項目
「物」…(ある歌手の)曲、食べ物、スポーツ、幼い頃の思い出の品など
「人」…両親、先生、友達、芸能人など
「出来事」…体育祭、学校生活、成功・失敗体験など
- ・ マラウイの同世代の子どもたちと自分たちは、共通する部分が多いことに気づいていた。

〈所感〉

先生方の所感または反省及び改善策等

人はそれぞれ考えていることや思っていることは違うことを理解することを目的とした前時に対し、生まれ育った国や育った環境が異なっても、同じ人間であればそう大差はないということを本時の目的とした。前回の「人生グラフ」で、大まかに自分のこれまでの人生を振り返っていたので、書き始めるまでに時間はかからなかった。

4時限目

これからの私

- (1) 「これからの私」《ワークシート③》を記入する
(2パターン用意し、使いやすい方を使用させる)
 - ・ 自分の望んでいる寿命と死ぬ直前に伝えたい言葉を記入する。

- ・ 中学卒業後の希望している進路を記入する。
(第1志望と第2志望)
- ・ その後の理想の生き方(進路)を4通り記入する。

(2) マラウイと日本の平均寿命の違いを知る

- ・ マラウイ…40代前半
- ・ 日本…70代後半～80代前半

(3) マラウイのHIV/AIDS問題、学校の問題点の説明を聞く

- ・ 1時限目に見た映像を思い出し、学校の環境・設備を日本と比較する。
- ・ HIV/AIDSの問題は性教育の授業で学習しているので、ここでは大まかに確認する。

生徒の感想

- ・ 寿命はほとんどの生徒は70歳以上と書いていた。
- ・ 4通りの理想の生き方は自分の将来や中学卒業後の進路について真剣に考えている生徒も多く、高校卒業後の生き方にも4通り以上の道を書いている生徒もいた。
- ・ マラウイの寿命の短さに、皆驚いていた。
- ・ 性教育の授業でも、HIV/AIDSも自分たちとかけ離れた問題だと感じている生徒も多かったが、マラウイの子どもたちの感染率の多さに唖然としていた。

〈所感〉

先生方の所感または反省及び改善策等

本時は中学校卒業後の志望校のことだけを考えるのではなく、高校卒業後の進路も考えさせた。今回の活動で生徒に気づかせたかったのは、日本人自分たちには未来に向かって無限の可能性があるということ、たとえ自分の望んでいない道に進むことになっても、軌道修正することはできるということを知ってほしかった。また、マラウイの現状を学習して「日本人は幸せだな」と思うだけでなく、「自分たちには何ができるのか」ということを考えさせる時間をもう少し取るべきだった。

成果と課題

～ 授業を通して ～

今回の授業を通して一番伝えたかったことは、「同じ人間は誰一人としていないが、みな同じ人間であるということ」だ。

今年は中学3年生を担任していることもあり、進路学習の中で授業を行った。「過去の自分を振り返る」、「現在の自分を見つめる」、「未来の自分を考える」ことを中心に授業を組み立てたが、じっくり自分のことを考える時間を取ったので、自分の適性、可能性、将来の夢、自分の周りで起きている問題など、様々なことを考慮して、一連の授業の

